

# 港区立中之町幼稚園 6月園だより

## 教育目標



- げんきな子
- かんがえる子
- なかよくする子
- がんばる子



令和 3年 5月 31日  
港区立中之町幼稚園  
園長 大橋 美都子

<http://nakanochō-kg.minato-ky.ed.jp/>

## 一緒に絵本を読む時間

園長 大橋 美都子

モンシロチョウやアゲハチョウを園庭でよく見かける季節となりました。3歳児太陽組もお弁当が始まり、自分の席に着いて少しずつ準備をしたり、片付けたりできるようになってきました。先生や友達と一緒に手遊びをしたり、先生が読む紙芝居や絵本を心待ちにしている姿も見られます。

子どもたちは、先生が読む絵本に興味や関心をもっていますが、皆様には小さい頃の思い出の絵本はありますか？ある大学の先生が、授業で学生に「幼いころに好きだった絵本、あるいは思い出に残っている絵本について、その絵本とどのように出会ったのか、どういう絵でどのような話のあらすじだったか、どこが好きで何が印象に残っているか」という課題を出したのだそうです。最初は「思い出の絵本なんてない」「小さい時のことは覚えていない」などという戸惑いの声があがったそうですが、結果的に全員がレポートを提出したそうです。「表紙の色や、絵を見た瞬間、話の内容を思い出した」「絵がとても好きだった」「主人公の奇想天外な行動にハラハラドキドキしていた」「読んでくれていたお母さんや先生の声、その時の状況がよみがえってきた」などのレポートが多かったのだそうです。とりわけ「本も面白かったが、お母さんに読んでもらうこと自体がうれしかった」「お父さんの読み方が面白かった」「お母さんの声が好きだった」「布団の中でくっついていて温かい感触を思い出した」など大好きなお家の方の思い出が多かったのだそうです。読み聞かせをしてもらうことは、単に絵本を読んでもらうだけでなく、お家の人の愛情を感じ取り、確認できる特別な時間と空間なのですね。字が分かり、自分で読めることと、大好きな大人に読み聞かせてもらうことは違うのです。あと数年たてば、「この本読んで」と持ってくることもなくなってしまうでしょう。大人にとっても子どもにとっても一緒に絵本を読む時間は、一生の中のほんの短い期間です。その時間をぜひ、ゆっくりと味わってほしいと思います。きっと子どもたちは何十年たっても覚えていることでしょう。

緊急事態宣言の発令期間が再延長となりました。もう少し、もう少し…大人も子どもも我慢のときです。おまつりや水遊びなど制限されることもまだまだありますが、できることを最大限工夫して、子どもたちが楽しめるようにしていきたいと思います。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。



砂で遊ぶの楽しいね。



砂で遊んだ後は片付けて、まずは手をパンパンパン！



今年もたくさんの昆虫と出合えそうですね。

